

# 特別な支援を要する児童・生徒に対する道徳教育 ～特別支援学級における指導の在り方：実践編～

聖徳大学  
名誉教授 吉本 恒幸



独立行政法人教職員支援機構

# 目次

---

- 1 道徳科の特質の理解
- 2 道徳科としての指導の実際
- 3 道徳教育としての指導の実際
- 4 道徳科と道徳教育を同時間に扱う指導の実際
- 5 まとめ

# 1 道徳科の特質の理解

道徳科の特質は、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の要として、道徳的価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己（人間として）の生き方についての自覚を深める学習を通して道徳性を養うことである。

心の内なる力  
(内面的資質)

( ) は中学校 【小：解説 p 8 9、中：解説 p 8 8】

# 1 道徳科の特質の理解

## 「特別の教科 道徳」（道徳科）の目標

道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる  
道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、  
自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、  
自己（人間として）の生き方についての考えを深める学習を通して、  
道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

# 1 道徳科の特質の理解

## 道徳科の授業が成立するための機能（特質）

### 学習活動

- (1) 扱う道徳的価値についての理解を図る **（基盤）**
- (2) 自己を見つめる
- (3) 物事を（広い視野から）多面的・多角的に考える **（方法）**
- (4) 自己（人間として）の生き方についての考えを深める



道徳的判断力、道徳的心情、道徳的実践意欲、道徳的態度

# 1 道徳科の特質の理解

## 道徳科で求められる基本的な学習指導過程

導入

主題に対する興味・関心を高める 動機付けを図る

展開

教材によって道徳的価値の理解を図る

道徳的価値の意味や大切さを理解する

価値理解

他者理解

人間理解

道徳的価値を自分のこととして捉える

これまでの自分の状況を見つめ、課題を培う

自己理解

終末

道徳的価値のよさを  
心の中で温める

自己（人間）の生き方を考える

# 1 道徳科の特質の理解

障害のある児童・生徒に対する道徳科は

◆ ソーシャルスキルトレーニングなどを用いて生活上のスキルを獲得することが目的ではない。

※ 体験的活動を手段として活用することはある。

◆ 価値について知的な理解を図ることが目的ではない。

授業として行う道徳科は、児童生徒の実態に応じながら、あくまでも道徳科の特質を踏まえて行われる必要がある。

## 2 道徳科としての指導の実際

児童生徒の実態として道徳科の特質を踏まえた授業が実施できる場合は、道徳科を設置して授業を行う。  
その場合、下学年の内容項目や教材、個別のねらいなどを扱うことも考慮する。

4・6年生児童 (A B C D)

第3学年及び第4学年 A - (3) 「節度、節制」

内容「自分でできることは自分でやり、安全に気を付け、よく考えて行動し、節度のある生活をする。」

教材「ゆうすけの朝」 3年生教材

A B D  
「～しようとする心情」

C  
「～しようとする判断力」

児童の実態によってねらいとする道徳性が異なる。



# 2 道徳科としての指導の実際



# 個に応じた指導案例

1 主題名 節度ある生活態度 内容項目A-(3)「節度、節制」

2 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

第3学年及び第4学年の内容項目A-(3)の内容は、「自分でできることは自分でやり、安全に気を付け、よく考えて行動し、節度のある生活をする。」とある。この内容項目には、基本的な生活習慣に関わることで、進んで自分の生活を見直し、思慮深く考えて自らを節制し、ほどよい生活をしていくことの2つの要素がある。児童は、規則正しい生活をし、安全に気を付けなくてはならないことは知ってはいるが、自分のやりたいことを優先して実践できないことがある。他の人に言われなくても、自分で考えて健康で安全な生活をする心情を育てたいと考え、本主題を設定した。

(2) 児童について(4年生 男子1人 女子1人 6年生 男子2人)

主題に関わる児童の実態	
A児(4年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>宿題をする前に遊んでしまい、夜遅くなってからやったり、忘れてしまったりする。兄が宿題をやるように言っても、やることができないことがある。</li> <li>前日に学校の支度をする習慣が付いておらず、筆記用具など、学習用具の忘れ物が目立つ。</li> </ul>
B児(4年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>交流遊びで使ったものを片付けるのを忘れてしまうことがある。</li> <li>学校の支度は、ほとんど母親にやってもらっている。</li> <li>学習用具の忘れも多い。</li> </ul>
C児(6年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゲームをしたりネット動画を見たりする時間が長い。生活リズムが不規則で朝起きられず、登校をしぶる傾向がある。</li> <li>依頼心が強く学校の支度は母親任せで、忘れ物が多い。</li> <li>宿題には取り組むことができず、登校をしぶる一因になるため、課題は出していない。</li> </ul>
D児(6年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習用具の準備が不十分で、筆記用具などがそろわないことが多い。</li> <li>寝る前にゲームをすることが多く、就寝が遅くなることもある。</li> <li>依頼心が強く、困ったことがあると、できないことをアピールして助けてもらおうとする。</li> </ul>

話し合いでは、C児は積極的に考えを発表することができ、A児、B児も指名されれば話すことができる。D児は、ほとんど自分の考えを話すことができない。本時は、順番に役割演技をすることで、D児の抵抗を減らし、考えたことを発表できる場の設定をしたい。

(3) 教材について(「ゆうすけの朝」出典：東京書籍)

ゆうすけは、ゲームに夢中になり、母親の忠告も聞かず夜中までゲームをしてしまう。翌日寝坊をしたゆうすけは、慌てて家を飛び出し、途中交通事故に遭いそうになる。遅刻せずに間に合ったものの、園工で使うペットボトルを忘れてしまったことに気付き、がく然とするという内容である。主人公に自分との共通点を見出し共感しながらも、どうしたらよかったのかを考える活動を通し、節度ある生活の大切さに気付かせる。また、節度ある生活を送ることは、他の人との快適な生活を送る上で大切であることを押さえ、自分自身で考えて行動しようとする心情を育てていきたい。

3 指導過程、各教科との関連

事前	道徳科	事後
常生活の指導 「リーダーの仕事しよう」	「ゆうすけの朝」 (本時)	日常生活の指導 「自分で考えてじゅんぴしよう」

内容項目に  
関する  
個々の実態

# 2 道徳科としての指導の実際

## 重要！通常の学級での指導案とは様式が異なっている

### 4 指導法の工夫

#### (1) 道徳的価値の理解につなげるポイント

こっそりゲームを続けているゆうすけに、どうしたらよいかを教えてあげる活動を通して、失敗をしないためには節度ある生活をするのが大切であることを理解し、自分自身で考えて度を過ごすことなく生活しようとする判断力と心情を個々の児童に応じて育むことにつなげたい。

#### (2) 自己を見つめる視点

時間を守ることや人の忠告を素直に聞くことなど、ゆうすけに教えてあげたことが自分ではできているかを考える活動を設定することで、真摯に自分と向き合い振り返ることができるようにする。

### 5 本時の学習

#### (1) ねらい

やりたいことを優先し、やるべきことを後回しにするゆうすけの姿に気付くことで、人に言われるのではなく、自分自身で考えて度を過ごすことなく、節度のある生活をしようとする判断力や心情を育てる。

#### (2) 児童一人一人に配慮した指導法の工夫

「あるあるマーク」を活用することで、登場人物を身近に感じることができるようにする。

#### (3) 準備・資料

場面絵、登場人物の言葉の吹き出し、あるあるマーク、ゆうすけと友達のお面、ワークシート、ミニメガホン、振り返りシート、すごろくシート、児童のコマ、さいころ

課程	主な学習活動	主な発問と予想される児童の反応 (○基本発問 ◎中心発問 ◇価値理解を明確にする発問)				準備・資料
		本時の個別のねらい				
		A 児	B 児	C 児	D 児	
		お母さんに厳しく言われたにもかかわらず、やりたいことを優先してしまっただけで、正直に忠告を聞くことや節度ある生活をしようとする心情を育てる。	やるべきことを後回しにし、お母さんに注意されたり、起こされたりしているゆうすけの姿に気付くことで、自分で考えてやるべきことをやろうとする心情を育てる。	お母さんに厳しく言われたにもかかわらず、やりたいことを優先してしまっただけで、自分のやるべきことをきちんとやろうとする判断力を育てる。	やりたいことを優先し、やるべきことを後回しにし、お母さんに何度も注意されるゆうすけの姿に気付くことで、自分のやるべきことをきちんとやろうとする心情を育てる。	準備・資料
導入	1 自分が夢中になっているものについて話し合う。	○ 自分が夢中になっているものは、何ですか。やっているときは、どうなっていますか。 ・ゲーム。やっているとすごく楽しくて夢中になる。 ・ネット動画。見ていると面白くてやめられない。				<ul style="list-style-type: none"> <li>場面絵</li> <li>登場人物の言葉の吹き出し</li> <li>ゆうすけのお面</li> <li>あるあるマーク</li> <li>ワークシート</li> </ul>
展開前段	2 教材「ゆうすけの朝」を聞いて話し合う。  (1) ゆうすけの言動が自分と同じだと思ったところに、あるあるマークを付ける。  (2) ゆうすけのお面をかぶり役割演技を行い、母親にしかられた場面のゆうすけの気持ちを考える。	○ 「いいかげんにしなさい。」と言われたとき、ゲームを続けたとき、ゆうすけは、どんな気持ちだったでしょう。  ・うるさいなあ。いいところなのに。 ・もっとやりたい。 ・しょうがない。やめよう。 ・どうしてもけんたさんには負けたくない。 ・見つからなければ、大丈夫だ。				
		登場人物の吹き出しに注目して話を聞くように伝え、内容を捉えやすくすると共に、登場人物の気持ちを考えるよう助言する。	ゆうすけと自分の似ているところを見付けてマークを貼る活動を通し、ゆうすけに寄り添って気持ちを考えることができるようにする。	最初に指名して発表させ、「最初に発表するのは勇気がいるね。」と称賛することで、発表や学習に対する意欲を高める。	お面を付けて楽しい雰囲気の中で順番に役割演技をすることで、発表に対する抵抗を軽減する。発表できたことを称賛する。	
	(3) 友達と会話する役割演技を通して、朝の会のときのゆうすけに気持ちを考える。	◎朝の会のとき、耳に何も入ってこなかったゆうすけは、どんなことを考えていたでしょう。  ・失敗したなあ。どうしよう。 ・用意してあったのに、どうして忘れちゃったんだろう。 ・お母さんが、届けてくれないかなあ。 ・ゲームをやめて、早くねればよかったな。 ・お母さんの言うことを聞けばよかった。				<ul style="list-style-type: none"> <li>ゆうすけのお面</li> <li>友達のお面</li> <li>ワークシート</li> </ul>

個に応じたねらい

個に応じた具体的な支援

# 2 道徳科としての指導の実際

## 個に応じた具体的な支援

(3) こっそりゲームをしているゆうすけの絵に向かって、ミニメガホンを用いてアドバイスする。

場面絵のゆうすけの表情から、気持ちを想像するとともに、あるあるマークを貼ったことを想起し、自分が忘れ物をしたときの気持ちも考えるようにする。	友達役の先生と会話する中で、お母さんに用意してもらっていたペットボトルを忘れてしまった原因がゲームをやめなかったことにあることに気付くようにする。	「失敗した。どうしよう。」という気持ちしか出ない場合には、「どうして忘れちゃったの。」と切り返し、ゲームでの夜更かしが原因であることに気付くようにする。	発表できない場合でも、気持ちを書くことができるように、吹き出しのワークシートをわたす。できるだけそのまま発表を促す。
--	---	--	--

〈価値理解を明確にするための発問〉

◇お母さんから注意されたのにゲームを続けたり、お母さんに勉強で使うものを用意してもらっていたりするゆうすけに、どうしたらよいかを教えてください。

- ・ゲームをおそくまでやらないほうがいいよ。
- ・ゲームをやめないと、大変なことになるよ。
- ・お母さんの言うことを聞いたほうがいいよ。
- ・学校のしたくをしてから、ゲームをしたほうがいいよ。

## 個に応じた具体的な支援

・吹き出しのワークシート  
・ミニメガホン

## 個に応じた評価の視点 (価値理解)

『「いいかげんにしなさい。」と厳しく言われたのに、こっそりゲームを続けたゆうすけをどう思う。」と声をかけ、素直に人の忠告を聞くことの大切さに気付くようにする。	『「いいかげんにしなさい。」と言ったお母さんはどんな気持ちだったかな。」と声かけをし、わがままをする他の人に嫌な思いをさせることに気付くことで、自分で考えて行動する大切さに気付くようにする。	時間を戻し、「いいかげんにしなさい。」とお母さんに言われた時のゆうすけに教えてあげるという場面設定で、あることを確かめて、伝えたい言葉を考えるように促す。	発表できない場合でも、気持ちを書くことができるように、吹き出しのワークシートをわたす。声が出せない様子の時は、教師と一緒に読むようにする。
---	---	---	---

個別の評価の視点

A 児	B 児	C 児	D 児
ゆうすけへの言葉かけを考慮することで、人の忠告を聞くこと、欲求に負けずに自分のやるべきことをする大切さを考えている。	ゆうすけの改善点を考えることで、人の忠告を素直に聞くことや時間を守って規則正しい生活することの大切さを考えている。	ゆうすけの失敗は、自分の欲求に負けゲームを遅くまでしていたことが原因であることに気付く、心を抑制することの大切さを考えている。	ゆうすけの失敗は、先のことを考えず、ゲームを遅くまでしていたことが原因であることに気付く、やるべきことを行う大切さを考えている。

○自分は、ゆうすけに教えてあげたことができているかな。ふり返ってみましょう。

・振り返りシート

## 個に応じた具体的な支援

振り返りシートのチェックリストに自己評価することで、自分の生活を振り返る。	振り返りシートのチェックリストに自己評価することで、自分ができていないことに気付くことができるようにする。	いろいろなことができていない自分に気付き、落ち込むことの無いように、「これから成長できる自分を思うとうれしいね。」と声かけをする。	振り返りシートのチェックリストに自己評価するとともに、自由に記入できる欄を設け、気付いたことや気持ちを書けるようにする。
---------------------------------------	---	---	--

個別の評価の視点

A 児	B 児	C 児	D 児
家族の忠告を聞かずに、宿題や学校の支度を後回しにしている自分に気付く直したいと考えている。	お母さんに声かけをしてもらって行動することが多い自分に気付いて、どうしたらいいか考えている。	宿題や学校の支度、早く就寝するなど、自分でやるべきことだと判断している。	宿題や就寝などお母さんに声かけをしてもらって行動することが多い自分に気付いている。

- 「はなまるすごろく」をしましょう。
- ・宿題をしたら、5マス進めたよ。
  - ・忘れ物したら、もどっちゃったな。

子どもたちの話合いから出されたよくみられる問題場面を言葉にし、それぞれの通過点に置き、そこに到達した子どもには自分のことを振り返るよう促す。

・すごろくシート  
・児童のコマ  
・さいころ

## 道徳的価値に関わる体験活動

終末 4 日常生活を疑似体験するすごろくで節度ある生活について考えながら、交流遊びをする。

## 2 道徳科としての指導の実際

導入：自分が夢中になっているものは何ですか。  
やっているときは、どんな気持ちですか。



ゲームをやっている。  
ネット動画をみている。

# 2 道徳科としての指導の実際

教材提示 視聴：教科書を読むことは難しいので教師が語る。



夜遅くまでゲームに夢中なゆうすけ



お母さんに叱られるゆうすけ

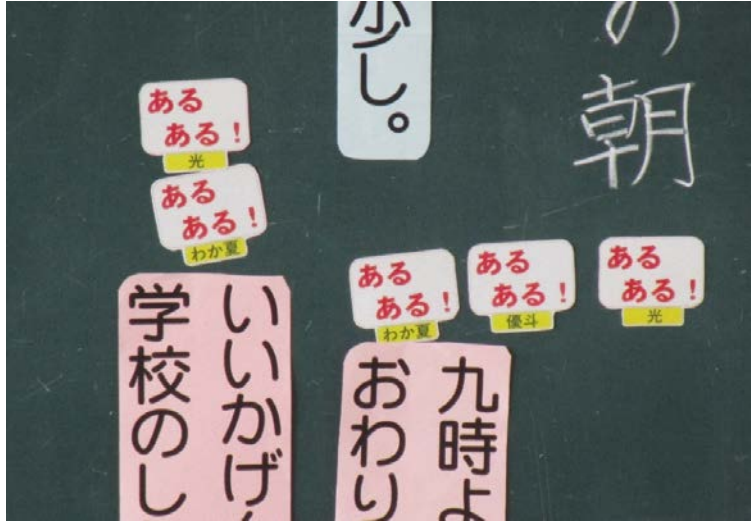


朝寝坊したゆうすけ



図工のペットボトルを忘れたゆうすけ

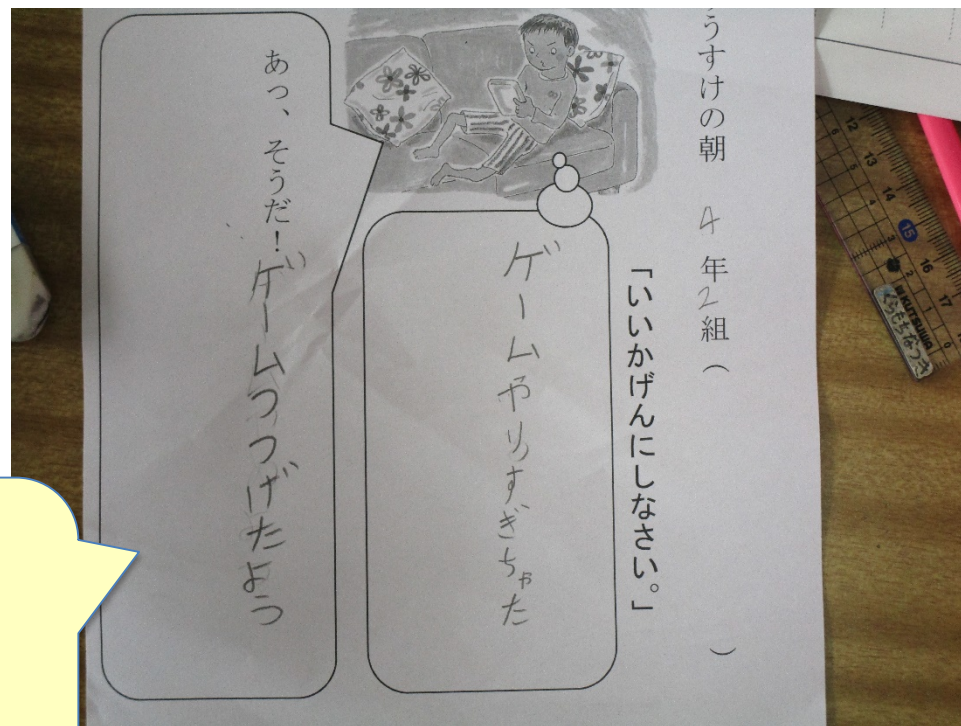
# 2 道徳科としての指導の実際



自分と同じと思った言動の個所に「あるあるマーク」を付ける。 内省①

## 2 道徳科としての指導の実際

「いいかげんにしなさい」と言われたとき、ゲームを夢中になって続けているゆうすけは、どんな気持ちだったでしょう。



◆発表が難しい児童に対しての  
吹き出し型のワークシート  
左のものには「あつ、そうだ！」  
という言葉が示されており、  
続けて考えやすくしている。



# 2 道徳科としての指導の実際

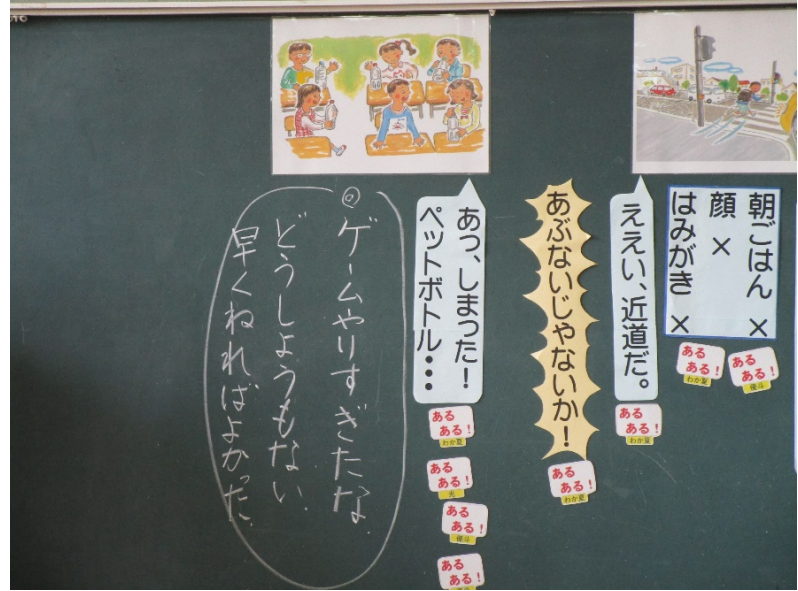


子供たちの意見を確かめながら  
類型化してまとめる。



# 2 道徳科としての指導の実際

朝の会の時、耳に何も入ってこなかったゆうすけは、どんなことを考えていたでしょう。

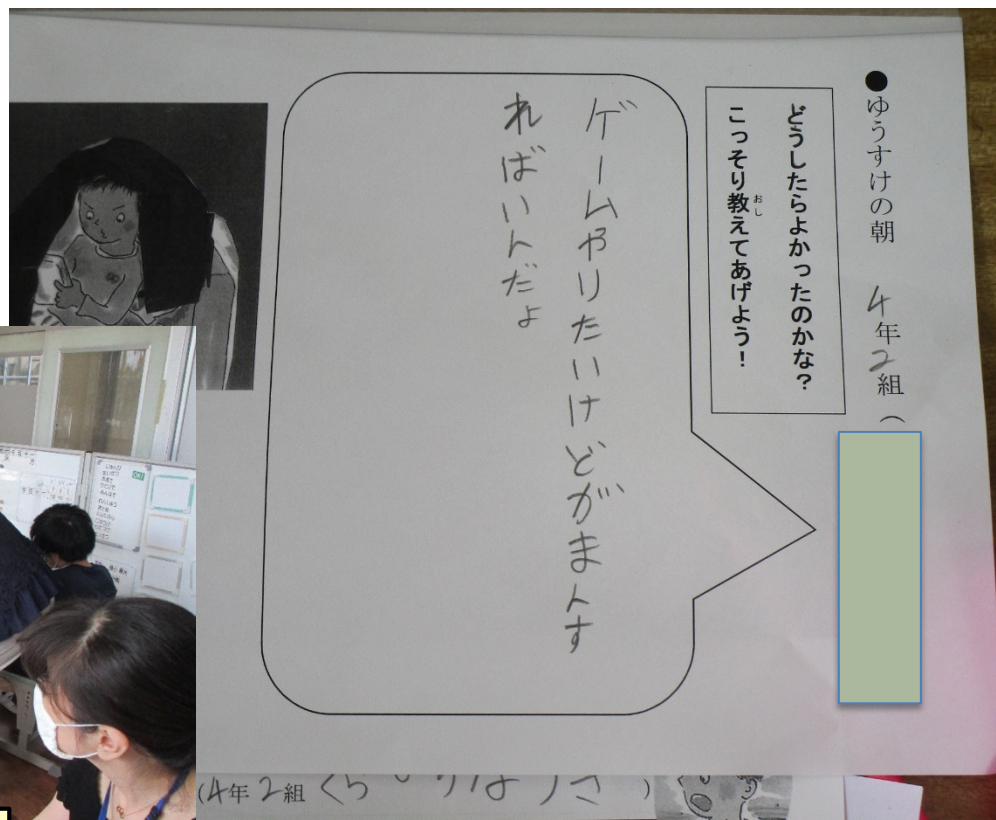


個に応じた言葉かけなどの支援

## 2 道徳科としての指導の実際

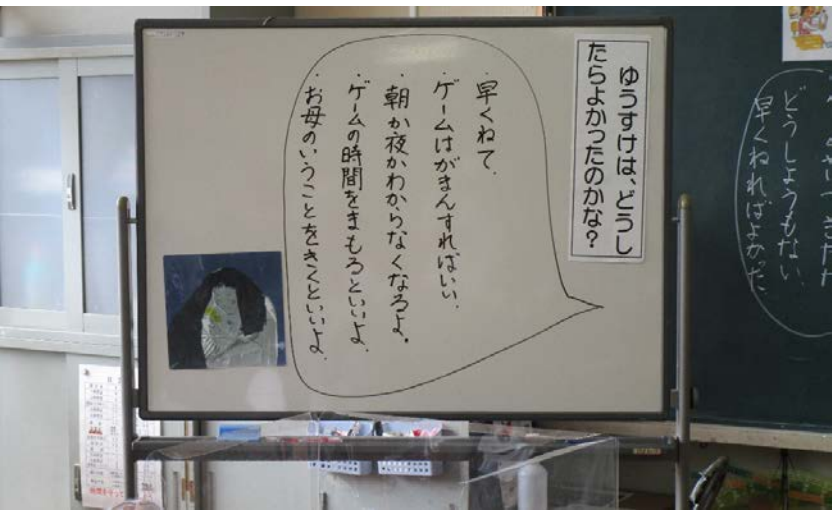
ゲームを続けていたり、お母さんに勉強でつかうものを用意してもらっていたりするゆうすけに、どうしたらよいかを教えてあげましょう。  
(価値理解の発問)

はじめにホワイトボードで示し、意欲を高める。



個に応じた支援

# 2 道徳科としての指導の実際



ミニメガホンを使って教えたいことを言葉にする。 **価値理解の工夫**

## 2 道徳科としての指導の実際

自分はゆうすけに教えてあげたいことができているかな。  
振り返ってみよう。（自己を見つめる発問）

カード提示


カード提示

自分は、できているかな？

早くねて。  
ゲームはがまんすればいい。  
朝か夜かわからなくなろうよ。  
ゲームの時間をまもるといいよ。  
お母のいうことをきくといいよ。

さん

ゆうすけは、どうしたらよかったのかな？



# 2 道徳科としての指導の実際



## 振り返りシートでの自己評価 内省②

自分は、ゆうすけに<sup>おし</sup>教えてあげたことができているかな？

	4 よくできている	3 だいたいできている	2 あまりできていない	1 できていない
ゲームやネット動画は、時間をきめている。		0		0
「早くねなさい。」と言われる前に、ねている。	0			
学校のしたくは、自分からしている。				0
しゅくだいをやってから、あそんでいる。	0			
家の人の言うことを、すなおにきいて行動している。		0		

<sup>おも</sup>思ったことを<sup>じゆう</sup>自由に書いてみよう！

日時間を決めてやると思った

## 2 道徳科としての指導の実際



「できていること」を発表しよう。  
⇒自己肯定感を大切にする意図  
※日常では注意されることが多い児童だからこそその配慮

## 2 道徳科としての指導の実際

### 子供たちが作った「はなまるすごろく」

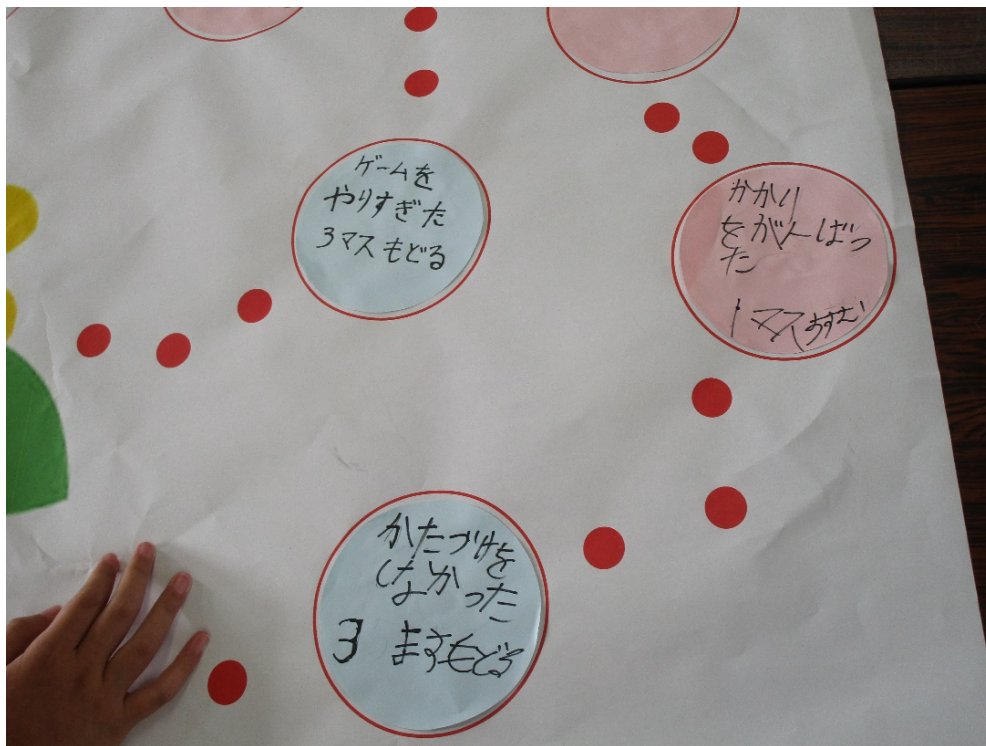


生活習慣として

- ・よくないこと・青
  - ・望ましいこと・ピンク
- ※子供たちが考えて、紙に書いたもの



## 2 道徳科としての指導の実際



水色は、子供たちから出てきた意見に基づき、生活態度での問題点が書かれている。

水色のところに着いた子供に「いつもどうかな。」と問い、発表させる。  
できていなかったら数字分だけ戻る。⇒生活態度の見直し。内省③

# 2 道徳科としての指導の実際



子供たちの頑張りを花丸マークを付けてほめる。



## 2 道徳科としての指導の実際

### 高く評価したい点

- ①児童の実態に応じた個別の指導を具体化していること。
- ②内容項目と教材は下学年のものを適用していること。
- ③指導案は、個別の配慮が可視化できると共に、道徳科の特質を踏まえた学習指導過程となっていること。
- ④道徳的行為に関する体験的な学習（役割演技）が取り入れられていること。⇒知的障害のある児童には特に有効
- ⑤場面絵、お面、ペットボトルなどの具体物を用意し、臨場感を出そうとしていること。

## 2 道徳科としての指導の実際

- ⑥発表が難しい児童に対しては、吹き出しの形のワークシートに書くようにしていること。
- ⑦教材の内容を自分のこととして捉えるために、主人公の言動が自分と同じところに「あるあるマーク」を付けていること。  
⇒内省（自己を見つめる）の第一段階
- ⑧価値理解に当たっては、「主人公に教えてあげよう」という問いによって一人一人が的確に行えるようにしていること。
- ⑨ワークシートの項目に自己評価を行い、自分の課題に気付くようにしていること。⇒内省（自己を見つめる）の第二段階
- ⑩終末で「はなまるすごろく」の活動を取り入れ、ねらいとする道徳的価値を体験的に学ぶ機会として位置付けていること。  
⇒内省（自己を見つめる）の第三段階
- ⑪「自己を見つめる」機会を段階的に設定していること。

## 2 道徳科としての指導の実際

学習集団を小グループ化した場合は、実態に応じて、それぞれに内容項目や教材などを設定する。

複数の特別支援学級の子供たちを一つに集めて同一の授業を行うことは適切ではない。

2・4・5・6年生

第3学年及び第4学年  
「希望と勇気、努力と強い意志」  
「自分のやるべき勉強や仕事をしっかりと行うこと」  
教材「一にち十ぶん」

A C G 「実践意欲」  
B D E F 「道徳的心情」

2・3・5年生

第1学年及び第2学年  
「規則の尊重」  
「約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にすること」  
教材「くろぶたのしっぱい」

A B C D E  
「道徳的心情」

# 2 道徳科としての指導の実際



一にち十ぶん



くろぶたのしっぱい

グループを分けて道徳科を行っている事例

### 3 道徳教育としての指導の実際

#### 道徳教育の目標（特別支援学校小・中学部学習指導要領 総則）

道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、小学部においては、自己の生き方を考え、中学部においては、人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標とする。

小学校・中学校学習指導要領も同様の趣旨

### 3 道徳教育としての指導の実際

道徳科としての授業展開において能力的に困難な実態がある場合は、教科や自立活動での指導、「各教科等を合せた指導」などを通して、道徳教育として道徳性を育む。

生活単元学習

A B C(3年生) D E(5年生)

- A 低「希望と勇気、努力と強い意志」(心情)
- B 低「規則の尊重」(意欲)
- C 低「希望と勇気、努力と強い意志」(心情)
- D 低「友情、信頼」(態度)
- E 中「勤労、公共の精神」(意欲)

「合わせた指導」の場合は、道徳科の内容の一部に関連しながら道徳性の育成を目指す、道徳科の特質を踏まえた授業が行われているわけではない。従って、実際には諸活動を通じた道徳教育としての指導となる。



# 道徳教育の視点を踏まえた生活単元学習指導案

知的障害学級ひかり1組

授業者

## 1 単元名「のびっこおみせ屋さん」

### 2 単元設定の理由について

#### (1) 児童の実態

本学級には、3年生3名、5年生2名の知的に遅れのある児童5名が在籍している。自分で決めためあてに向かって取り組もうとするが、困難なことがあると諦めてしまう姿がある。5年生は3年生に積極的に働きかけるが、できることも手伝おうとするなどかわり方が適切でないときがある。3年生は学年の仲間とは声を掛け合って遊ぶが、5年生とのかわりは少ない。自分から人とかわろうとしない児童もいる。

また、全体的に、自分の考えや思いを相手に分かりやすく伝えることが苦手であり、日常生活の中で何を話したらよいか分からずに困っている場面も見られる。

#### (2) 生活単元学習で高めたい力

- ・活動をしたいという願いをもち、進んで活動に取り組み、粘り強くやり遂げることができる。
- ・仲間と一緒に様々な活動に取り組み、仲間と共に活動する楽しさを感じたり、よりよいかかわり方を身に付けたりすることができる。
- ・自分の思いを相手に分かりやすく伝えたり、相手の思いを受け入れたりすることができる。

#### (3) 単元「のびっこおみせ屋さん」について

本単元は、本校の児童や教師を対象に「心のとも」の商品を販売する活動である。ここでは、「注文を確かめてお金を受け取る。注文を表にまとめる。お金を集計する。品物を発注する。品物を一人分ずつに分ける。」など、様々な実際的な活動により児童一人一人の実態に応じて役割をもたせることができる。

多くの注文に対応するためには、一人一人が自分の役割を果たし、仲間と協力して活動することが大切になる。したがって、自分で決めたことや分担されたことに積極的に取り組み、粘り強く最後までやり遂げる必然性が生まれてくる。また、やり遂げるためにはどうすればよいか考えることで、より高い目標をもって取り組めるようになる。

「心のとも」の販売活動は、昨年度も行い、約350人分の注文を受け、品物を販売した。児童にとっては意欲的に取り組むことができ、やりがいを感じることで活動の一つである。お店を開くためには、お客さんと気持ちよく接することも大切である。は気持ちのよい挨拶や言葉遣い、動作など、お客さんへの対応の仕方を工夫させ、身近な人と明るく接する中で、気持ちよさを感じる体験も重視する。これら生活単元学習の活動を通して、自立や社会参加のための資質・能力を身に付けることを目指す。

通常の学級との  
交流を図り、  
文房具用品の  
注文を取って、  
品物を届ける。

### 3 単元構想

本学級に在籍している児童と交流する3年生と5年生のクラスから、ひかり学級に注文を出してもらおう。交流学級に出向き、その場で、注文の内容と金額（交流学級の担任から渡される現金）を確かめる。出向いたときや注文を受け取るときにどのような挨拶や対応をしたらよいかを事前に考え、練習しておく。交流学級の児童には、後日の昼休みに品物を届けることを伝える。品物を渡す場面でも、適宜、気持ちのよい対応の仕方が身に付くように支援する。

### 4 単元「のびっこおみせやさん」の目標

共通目標と個別の目標	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お店の活動に見通しをもち、進んで取組み、自分の役割を粘り強くやり遂げることができる。</li> <li>・注文票を見てお金を合計したり、お金を確かめて受け取ったり、正しく品物を準備したりして、仲間と協力して店の活動ができる。</li> <li>・お客さんが気持ちよく買い物をするために、お客さんへの対応の仕方を工夫することができる。</li> <li>・注文票の見方や合計の仕方、お金の数え方、等価関係、接客の仕方が分かる。</li> </ul>
A児 (3年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・品物の名前や注文票の見方が分かり、正しく集計したり、品物を出したり、お金を数えたりすることができる。</li> <li>・お客さんのことを考えて言葉をはっきり言って接することができる。</li> </ul>
B児 (3年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・注文票を見て品物を正しく出したり、お金を正しく数えたりすることができる。</li> <li>・相手を見て元気な大きな声で挨拶をすることができる。</li> </ul>
C児 (3年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・注文票を見て品物の数を正しく集計したり、品物を出したり、お金を数えたりすることができる。</li> <li>・仲間に声を掛け合って活動したり、相手の顔を見て挨拶したりすることができる。</li> </ul>
D児 (5年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正しく代金を求めたり、注文をまとめたりすることができる。</li> <li>・仲間やお客さんの求めに応じて、自分で判断して行動することができる。</li> </ul>
E児 (5年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正しく代金を求めたり、注文をまとめたりすることができる。</li> <li>・仲間やお客さんの求めに応じて行動することができる。</li> </ul>

生活単元学習の  
個別のねらい

### 5 単元指導計画及び関連する道徳教育の内容項目等

時	学 習 活 動	主な内容項目	他の教育活動との関連
1	計 画 ・昨年度の「えんぴつやさん」についてどのような活動であったかを思い出し、今年度の活動の在り方を話し合い、理解する。	希望と勇気、努力と強い意志	〈日常生活〉 【係・当番活動】 ・自分で決めた係の仕事
2	準 備 ・広告をつくる。	希望と勇気、努力と強い意志	や日直の仕事、給食当
3	・交流学級と担任の先生に配る注文票を作る。		番の仕事に進んで取り
4	・注文票の見方を覚える。		組む。

5	練習	・交流学級へのお知らせの仕方を考え、練習する。	希望と勇気、努力と強い意志 礼儀	・仲間が忘れていた仕事を見付けると声を掛け合う。
6	①	・注文票を見て、正しく品物を選び丁寧に袋に入れる練習をする。		
8	注文	・交流学級と担当の先生の注文票を準備し、配布しに行く。	希望と勇気、努力と強い意志 礼儀	【帰りの会】 ・朝の会で決めためあてが、頑張れたかどうかを発表する。 ・仲間のよかったことや、してもらって嬉しかったことを発表する。 【宿題】 ・自分がやるべき宿題を忘れずに行く。
9	を	・注文票を取りに行く。	友情、信頼	
10	ま	・注文票と代金が合っているか確かめる。	勤労、公共の精神	
11	と	・注文を表にまとめる。		
12	め	・代金を集計する。		
12	品物	・交流学級と担任の先生の分の品物を注文票ごとに分ける。	希望と勇気、努力と強い意志	【教科】 【国語】 ・相手に応じて、丁寧な言葉と普段の言葉との違いに気を付けて話す。 ・経験したことや感じたことを文に書く。 【算数】 ・簡単な表の意味と見方が分かる。 ・等価関係が分かり、お金を正しく数える。
13	を	・分けられた品物に間違いがないか確かめる。	友情、信頼 規則の尊重 勤労、公共の精神	
14	練習	・お客さんにどんな言葉を遣ったり、どのように品物を渡したりすればよいかを考える。	希望と勇気、努力と強い意志	
15	②	・教師が子供役、児童がお店やさん役になり互いに練習をする。	礼儀	
17	品物	・再度、品物が正しく入っているかを確かめる。	希望と勇気、努力と強い意志	
18	を	・交流学級の代表の子供と担任の先生に品物を手渡す。(昼休み)	礼儀 勤労、公共の精神	
19	振り	・今回の「のびっこおみせやさん」で、自分や仲間のがんばりを発表する。	友情、信頼 相互理解、寛容	
20	返	・がんばったことや楽しかったことを絵や作文にまとめる。	勤労、公共の精神	

## 各学習活動に関連する内容項目

### 6 本時の指導

#### (1) 生活単元学習と道徳教育における個別のねらい

個別のねらい (□生活単元学習 ■道徳教育)	
A 児 (3年)	□注文票を声に出して読んだり、指を使って確かめたりして正しく最後まで品物を分けることができる。  ■自分のやるべき仕事を最後までやり抜こうとする心情を養う。 (低：A 希望と勇気、努力と強い意志)

B児 (3年)	<input type="checkbox"/> 注文票を読んだり、指を使って確かめたりして、正しく丁寧に品物を分けることができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 仕事に関する約束やきまりを守ろうとする意欲を養う。(低：C規則の尊重)
C児 (3年)	<input type="checkbox"/> 困ったときは、自分から仲間に聞いて、正しく品物を分けることができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 自分のやるべき仕事を行おうとする心情を養う。(低：A希望と勇気、努力と強い意志)
D児 (5年)	<input type="checkbox"/> 下級生の様子を見て声掛けしたり助けたりしながら、品物が正しいか確かめて、丁寧に袋に入れることができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 仲間を励まし、助け合っていこうとする態度を養う。(低：B友情、信頼)
E児 (5年)	<input type="checkbox"/> 全体の動きを見ながら行動し、下級生の様子を見て声掛けしたり、品物が正しいか確かめたりして、丁寧に袋に入れることができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 働くことの大切さを知り、進んでみんなのために働こうとする態度を養う。 <small>(中：C勤労、公共の精神)</small>

本時での  
生活単元学習の個別のねらい

本時での  
個別の道徳性のねらい

## (2) 目標達成に向けた指導の工夫

### ◆活動をやり抜くための支援

#### 〈導入場面〉

- 本時での一人一人の活動のめあてを確認することで意欲をもてるようにする。
- 一人一人に期待する道徳教育としてのねらいに関する姿を励ましの言葉で伝える。
- 前時の活動を振り返って、自分が役割を果たしている姿、上級生が下級生に声をかけている姿などを紹介し、このときの気持ちよさに触れることで、大切にしていきたい道徳教育としてのねらいにつながる視点をもてるようにする。

#### 〈活動場面〉

- できるかぎり自分の力でやり遂げるように、立つ位置や道具の配置が分かるための印を付けるなど環境を整えたり、既習の経験から自分たちで見つけた「コツ」を掲示したりする。

#### 〈終わりの場面〉

- 自分のめあてができたかを振り返ったり、同じグループの仲間のよかったところを発表したりして、互いに認め合う場をもつ。
- 教師も一人一人の活動のめあてや道徳的価値に関連して見られたよい姿を紹介し、行動を価値付ける。

### ◆コミュニケーション能力を高めるための支援

- 5年生をリーダーとして、2つのグループをつくる。5年生は担当するグループ全体を見ながら、他のメンバーが自分の役割を果たすことができるように声を掛けたり、必要な場合は手伝ったりする役割を担うようにする。
- グループ内での仕事の分担や準備、片付け物の受け渡しなど、すべて自分たちで行うようにすることで、互いにやりとりする機会が生まれるようにする。
- 2つのグループ間で、めあてが達成できたかを確認する場を設け、認め合ったりよりよくするためのアドバイスを交わしたりするようにする。

# 生活単元学習の個別のねらい

## 本時の展開

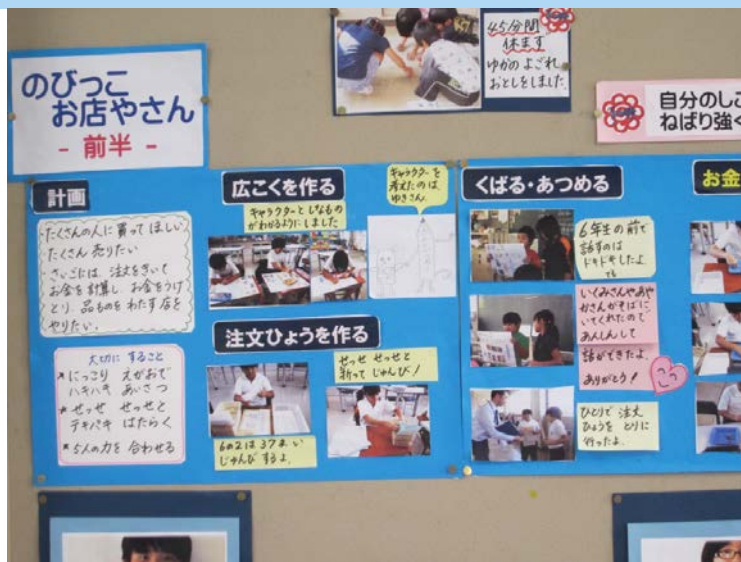
	教育内容	A児 (3年)	D児 (5年)	B児 (3年)	C児 (3年)	E児 (5年)
ねらい	生活単元学習	注文票を声に出して読んだり、指を使って確かめたりして正しく最後まで品物を分けることができる。	下級生の様子を見て声掛けしたり助けたりしながら、品物が正しいか確かめて、丁寧に袋に入れることができる。	注文票を読んだり、指を使って確かめたりして、正しく丁寧に品物を分けることができる。	困ったときは、自分から仲間聞いて、正しく品物を分けることができる。	全体の動きを見ながら行動し、下級生の様子を見て声掛けしたり、品物が正しいか確かめたりして、丁寧に袋に入れることができる。
	道徳教育	自分のやるべき仕事を最後までやり抜こうとする心情を養う。 低 A (5)	仲間を励まし、助け合っていこうとする態度を養う。 低 B (9)	仕事に関する約束やきまりを守ろうとする意欲を養う。 低 C (10)	自分のやるべき仕事を行おうとする心情を養う。 低 A (5)	働くことの大切さを知り、進んでみんなのために働こうとする態度を養う。 中 C (13)
	学習活動	・期待される児童の活動      □具体的な支援				
つかむ	1 本時のめあてと個別のめあてを確かめる。	注文を受けた注文を間違えずに、品物を正しく分けよう。				
		数や鉛筆の HB、B、2B を間違えないようにする。	数を間違えないように指でさし、声に出して確かめる。	指でさして確かめて、大切に品物を持って分ける。	分からないときは仲間聞いて、正しく品物を分ける。	品物が正しいか注文を声にし、読みながら確かめる。
活動する	2 活動を行う。	Aグループ		Bグループ		
	①準備をする。 リーダーが分担して、グループごとに1クラス分の品物を準備する。  ②練習をする。 互いの仕事の様子を見て、めあてが守れているかチェックする。  ③それぞれのグループごとに自分の分担の仕事を行う。	・声に出して数えながら、品物をかごに入れる。 ・E児が品物を袋に入れるときは袋を持っている。 □HB、B、2B が区別できるように記号を色で分けたり、品物の名前を書いたりして分かるようにしておく。 □半分ほどできたところで、正しくできていたか確認し、残りも正しく分けるためにはどうしたらよいかめあてを再確認する時間をもつようにする。	・集計表を見て、何をいくつ準備するかをA児に伝える。 ・正しく準備ができていないか指でさしたり、声に出して確かめたりして袋に入れる。 □今までの活動のファイルを見る場を設け、本時ではどんなことに気を付けるとよいか意識できるようにする。 □どんなときにどんな言葉掛けや働き掛けをするよいかを事前に一緒に考え、掲示しておく。	・注文票をよく見て確かめたり、声に出して数えたりしながら、品物をかごに入れる。 □今までの失敗を記録したのを見て、本時で気を付けることを確認する。 □早くやろうと慌てるときは、めあてをもう一度見るように声掛けしたり「声、指、そっと」という言葉を書いて示したりしておく。	・注文票を指でさし、声に出して読みながら品物をかごに入れる。 □自信をもって取り組めるようにするために、初めの活動を見届け、できていることを褒めていく。 □注文の数が不明瞭でよく分からないなどの困る場面を意図的につくり、自分から聞き出す。	・集計表を見て、何を準備するかをB児やC児に伝える。 ・B児C児が準備した品物が正しいか確かめて袋に入れる。 □品物を丁寧に扱うことや仲間への働き掛けについて具体的にどのようにするかを事前に一緒に考え、掲示しておく。 □B児やC児にできているか確認し、できていたら○を付ける表を準備しておく。
	道徳教育に基づく個別の評価の視点					
	声に出しながら、最後まで一つ一つ確かめようとしている。	A児に温かい言葉掛けをしたり助けたりしながら仕事をしているようにしている。	約束に従い決められた数を間違えないように気を付けようとしている。	分からないときは進んで聞き、自分の分担を果たそうとしている。	リーダーとして仲間を励まし、みんなが気持ちよく仕事ができるように気を配っている。	
まとめ	3 振り返りをする。 ①自分や仲間ががんばったことを発表する。 ②よい姿を教師が紹介する。	・人数分の品物を HB、B、2B に気を付けて正しく分けられた。	・注文の品を全て正しく準備できた。向きを考えて袋に入れられた。 ・Aさんは確かめながら品物を分けていた。	・品物を大切に扱っていた。	・注文の品物を全て正しく分けられた。 ・BさんやCさんは間違えずに品物をかごに入れていた。	

個別の道徳性のねらい

個に応じた具体的な支援

道徳教育の視点からの個別の学習状況

# 3 道徳教育としての指導の実際



### 3 道徳教育としての指導の実際

#### 高く評価したい点

- ①生活単元学習の本質的な在り方を捉えていること。
- ②単元指導計画の段階ごとに内容項目を位置付けていること。
- ③本時の指導に当たって、生活単元学習と内容項目に関連した道徳教育の個別のねらいが設定されていること。
- ④指導案では、個別の具体的配慮が構想されていること。
- ⑤指導において、道徳教育に基づく個別の評価の視点が位置付けられていること。

# 4 道徳科と道徳教育を同時間に扱う指導の実際

児童・生徒の集団を見た場合に能力的な差異が著しい場合は、グループを分け、一つのグループでは道徳科を行い、他のグループでは「合わせた指導」などで道徳教育を実施する。

2・4・5年生

第1学年及び第2学年  
「友情、信頼」  
「友達と仲よくし、助け合うこと」  
教材「わけっこしよう」 2年生

A B 「道徳的実践意欲」  
C 「道徳的心情」

遊びの指導  
(1・2・3・4・6年生)

- D 低「友情、信頼」 (道徳的心情)
- E 低「友情、信頼」 (道徳的心情)
- F 低「友情、信頼」 (道徳的態度)
- G 低「友情、信頼」 (道徳的心情)
- H 低「友情、信頼」 (道徳的心情)
- I 低「友情、信頼」 (道徳的態度)



## 4 道徳科と道徳教育を同時間に扱う指導の実際



- ① 初めは全員であいさつし、学習の流れを確かめる。



# 4 道徳科と道徳教育を同時間に扱う指導の実際



- ② グループに分かれる。
  - ◆道徳科のグループ
  - 低「友情、信頼」
  - 教材：2年 わけっこしよう

## 4 道徳科と道徳教育を同時に扱う指導の実際



- ③ 友達と遊びを通してかかわり合うグループ  
(遊びの指導) 「友情、信頼」

## 4 道徳科と道徳教育を同時に扱う指導の実際



- ④ 最後は一緒になってそれぞれのグループが何を行い、話し合ったかを報告する。

## 5 まとめ

授業に子供を合わせるのではなく、  
子供に授業を合わせること。

◆「教科等別の指導」の形態により「道徳科」を実施する場合

指導案は個への具体的な支援が分かるものにする。

⇒通常の学級の指導案とは異なる様式と記入になる。

- ①年間授業時数及び単位時間は実態に即して適切に定める。
- ②内容項目を選択し、重点化を図る。
- ③実態に応じて下学年の内容項目や教材を扱う。
- ④ねらいは、実態と指導目標に即して個別の道徳性の育成を目指す。

## 5 まとめ

- ⑤実態によっては学習集団をグループ化し、各々に適した内容項目と教材を扱い、個々の道徳性を高める。
- ⑥授業は道徳科の特質を踏まえるとともに、一人一人に応じた具体的な支援を構想し、実施する。
- ◆「各教科等を合わせた指導」の形態により、道徳教育として指導する場合 ※教科や自立活動などを通して指導する場合もある
- ①指導計画には重点化により選択された内容項目を関連する活動ごとに位置付ける。 ※指導案には明示すること。
- ②活動場面で育成を目指す個々の道徳性を明確にし、個への具体的な支援を構想する。 ※指導案には明示すること。
- ③指導に当たっては、学習の中で一人一人のねらいに照らして見られる好ましい姿を称賛し、個々の道徳性を育む。

## 5 まとめ

- ◆「教科等別の指導」と「各教科等を合わせた指導」を同時に並行して行う場合
  - 単一学級や複数学級において、道徳科の授業が行える児童・生徒や、それが困難な児童・生徒が混在していることもある。
  - その場合は、学級の枠を取り払ってグループ化し、一つでは道徳科を行い、他では「各教科等を合わせた指導」などにより、道徳教育として道徳性を育むなど柔軟に対処する。

特別支援教育は「個に応じた指導」を原則とする。  
児童・生徒の実態に即して指導の形態や内容項目などを選択し、指導に当たっては個別の具体的な支援を図ることが重要である。